

福井市防災士の会 令和4年度総会 基調講演  
福井市災害ボランティアセンター連絡会 構成団体研修



# 災害ボランティアセンターの 運営と役割

～支援の進化・多様化と課題～

2022年5月14日(土)10:30～12:00

福井市総合ボランティアセンター 交流ひろば

# ■ 本日の研修の目的

- ① 災害ボランティアセンター（VC）や連絡会の役割、機能を知ってほしい！
- ② 災害VCの構成団体として、お互いに顔見知りになってほしい！
- ③ 近年の災害VCの支援の進化、多様化と課題を知ってほしい！

# ■ 本日の研修の内容

講義(前半)と、演習(後半)の二部構成です。

演習では…

① 災害VCのスタッフ役

② 被災住民役

③ 県内外からの駆けつけボランティア役

として、受付等のやり取りをしていただきます。

(難しい場合は、見学だけでもOKです)

# ■ 今回のキーワード

## ＜支援の三原則＞

- 「被災者中心」

すべては被災者のために

- 「地元主体」

支え合いのある地域を再構築するために

- 「協働」

支援の幅と可能性を広げるために

## ■ 災害ボランティアセンター（VC）とは

- 被災地に寄せられたボランティアの力を、被災者の元に届けるためにコーディネートを行う組織（法律で定められた組織ではない）
- 自治体として大きな期待を寄せている（地域防災計画にも位置）
- 全国的には社会福祉協議会（社協）が担うことが定着している
- 福井県内では、社協、自治体、民間団体等が協働する災害ボランティアセンター連絡会を構成している市町が多い

# ■ 福井市等での災害VCの関わり

＜過去の災害での実績＞

## ロシアタンカー重油事故災害

1997(平成9)年 1月～2月

鷹巣海水浴場に設けた災害VC

## 福井豪雨(みのり、一乗、美山)

2004(平成16)年 7月～8月

＜福井県内＞

越前市(2012年7月)、小浜市・若狭町(2013年9月)、  
越前町(2021年7月)

# ■ 防災士の会と災害VCの関わり

2010(平成22)年以降は・・・

災害VCを素早く設置するため、平常時から連携を深めるために結成した「福井市災害ボランティアセンター連絡会」の一員に

＜構成団体＞

福井市防災士の会、ふくい災害ボランティアネット、  
ふくい市民国際交流協会、福井市社会福祉協議会、  
福井市ボランティア連絡協議会、福井青年会議所、福井市  
事務局は、福井市市民協働・ボランティア推進課  
(ハピリン4階 福井市総合ボランティアセンター)

# ■ 福井市災害ボランティアセンター連絡会

## ＜平常時の活動＞

- 訓練（設置協議、設置運営、閉鎖など）
- 資質向上のための研修（判断力など）
- 情報発信（PR活動、インターネット等）
- 備品や資材の整備

## ＜災害時の活動＞

- 災害VCの設置協議、運営

# ■ 災害ボランティアとは

- 一般ボランティア

活動経験の少ない人、団体など

- 専門ボランティア

特技、技術、資格を生かした活動

(例)医療、建築、土木関係など

<時期によって関わり方も変わる>

発災直後→復旧→復興→元の生活へ

## ■ 平時と災害時(特に復旧・復興)の ボランティアのちがいを特徴は？

初めての人も参加しやすい活動

被災地外からボランティアが駆けつけてくる！

地元の人だからできる活動もある！

(受付、道案内、ニーズキャッチ、宣伝など)

被災して身動きできない地元ボランティアも・・・

## ■ 災害VCの設置タイミング

- ★続々とボランティア活動者が集まってきたため設置  
阪神・淡路大震災、ロシアタンカー重油事故災害  
(三国町)、福井豪雨(一乗)
- ★被害が確認された後に関係機関からの要請で設置  
ロシアタンカー重油事故災害(福井市)、若狭町
- ★関係者(連絡会)の協議によって開設  
福井豪雨(みのり)、越前市、小浜市、越前町
- ★NPOや住民が自主的に開設  
東日本大震災で多数

## ■ 災害VCの収束方法

- 数週間以上前から閉鎖日を設定  
連絡会や関係機関との十分な協議  
団体での活動申し込みを停止
- 対象エリアに全戸配布のチラシを配布  
医療チーム、マスコミなどにも協力要請
- 円滑な通常のVCへ移行  
復幸VC、支え合いVCなどに移行  
福井豪雨の対応では、市社協の通常業務  
の中で最後のニーズ対応(10月24日)

# ■ 災害VCを設置するときの配慮事項

- 交通アクセスのいい場所
- 駐車場の確保
- 被災地になるべく近い場所
  - ニーズが出やすい、送迎手段が不要
- 電気・水道の確保とトイレ設置の可能な場所
- ボランティアのための医療スタッフの確保
- 近隣の生活環境にも配慮(迷惑の予防)

⇒設置場所は、災害発生後に判明する  
ケースが多い

# ■ 災害の種類によって 災害ボランティアの活動内容は異なる

	水害・高波など	地震・噴火など
災害VCの 設置期間	メドがつきやすい	メドがつきにくい
ボランティアの 活動内容	清掃→ゴミだし →福祉的ニーズ	多彩(日によって異なる)
ライフラインの 復旧	早い	遅い
ボランティアの 受け入れ	スムーズ	一進一退

## ■被災の場所によっても異なる

	都市部	農山間地、漁村
依頼方法	個人中心	町内会で取りまとめ
ボラへの期待	高い	低い
個人のニーズ	上がりやすい	上がりにくい

## 「ボランティア派遣」という言葉

(大阪ボランティア協会の情報誌「ウォロ」2011年夏号)

「派遣」は部下など指揮下にある相手に使う言葉であって、自発的に活動するボランティアに使う言葉としては、ふさわしくない。 →「送り出し」、「活動先の紹介」

## ■ 住民からのニーズの傾向

- 高齢者・障がい者の世帯の特徴

リピーターになる割合が高い(最高20回)。

「代理人からの依頼」の割合が高い。

- 依頼件数の伸び

高齢者・障がい者は2日目・3日目にピーク

(遠慮されている様子が顕著)

- 災害VC閉鎖(8月5日)後の依頼

すべて高齢者・障がい者世帯・・・

→ふだんから

高齢者・障がい者の防災力と「受援力」の醸成を！

# ■ 災害ボランティアの活動内容

## ① 広報上では……

屋内・敷地内の泥出し、小家具の移動、ゴミ出し、掃除

## ② 実際にはこんなことも……

空き地・月極駐車場・無人家屋の泥出し(本人入院中も含む)、  
バルでの床板めくり、買物代行、側溝掃除、田畑掃除、  
義援物資運搬(公民館→自宅など)、消毒作業、  
会社倉庫整理(人形、材木、古書)、家事(食器洗浄)、  
草むしり、ゴミの搬出(トラックでの輸送)、  
お墓の清掃、玉砂利洗浄、荷物運搬＝引越、  
庭木の剪定、壁・塀の洗浄、話し相手 など

※復旧が進むにつれて急を要しない依頼が増加。

※ボランティアと業者と行政の境目があいまい……

# 災害VCの配置図 (2004年福井豪雨「みのり」の場合)

仮設トイレ

水道  
水道

県事務所

手洗いバケツ置き場

市センター(総務)

自転車置き場

荷物置き場  
休憩所

女性専用  
更衣室

輸送・突発  
事項対応

地図作成

被災者の  
ニーズ受付  
(電話・来所)

ボランティア受付  
(保険加入・名札作成)

マッチング  
(送り出し)

活動報告

物資  
(数量管理・洗浄など)

飲物

消毒手洗

救護  
(赤十字病院)

オリエン  
テーション

使用道具洗場

用具洗場

入口

# VCの活動内容と運営スタッフの構成

福井豪雨「みのり」の例

テ ン ト 内	1. 受付班	被災者ニーズとボランティア受付
	2. マッチング班	地図および指示書作成 送り出しとオリエンテーション 輸送・特発対応、活動報告受取
	3. 物資班	数量管理・発注・洗浄
	4. 衛生管理班	救護・環境整備・水分補給
	総務班	全体的な調整・調査隊

運営の中心	福井市社協、福井青年会議所(JC)、ボランティア 連絡協議会、市役所市民協働推進課、 ふくい災害ボランティアネット
スタッフ内訳	応援社協、応援JC、宗教系団体、長期個人ボランティア
スタッフ	10~30人

## ■ 皆さんへお願い

- 福井市で、災害VCが設置された際には、運営スタッフとして関わってほしい！
- 被災された友人知人に、災害VCの利用をお勧めしてほしい！（特に、高齢や障がいの遠慮気味の方）
- 平常時から、災害対応に関心を持ってほしい！
  - 自分や家族の「命」を守る！
  - 地域での「受援力」を高める！

# ■ 災害ボランティアによる 支援の進化(転換点)

- 1995年 阪神・淡路大震災  
ボランティアの力を認識、災害系NPOの萌芽
- 2004年 新潟県中越地震  
平時から支援体制の整備(連絡会もその一つ)
- 2011年 東日本大震災  
メガセンター・サテライト拠点による支援(長蛇の列)
- 2020年 アフターコロナ  
感染対策とVC運営の分散化(小規模化)  
クラウド等を活用した情報共有・発信

# ■ 感染対策と災害VCの分散化

- 従来の大規模の災害VC  
スタッフ等に複数感染者が発生  
・・・被災者支援にも大きな影響



- 小規模の災害VCへ

<メリット>

被災者の身近な場所に設置  
万が一の閉鎖時は近隣でカバー可

<課題>

運営スタッフの必要人員増、対応力強化  
人材育成システムの強化、交通アクセス

# ■クラウド等を活用した情報発信

- Facebook／Messenger  
各方面との即時連絡調整(LINEより優位)
- Zoom  
頻繁かつ短時間の打ち合わせ
- キントーン(サイボウズ社)  
処理の速度向上、時間短縮、省力化  
(予約制で長蛇の列を解消)
- 動画(Youtube)等の活用  
特にオリエンテーション

# ■ 後半(演習)の流れ

## 1. デモンストレーション(見本)

被災者のニーズ受付や、駆けつけたボランティアを被災現場へ送り出すまでの流れを実演します  
(今回はペーパー中心のアナログで)

## 2. 役割を担いながらの演習(1~2回)

①災害VCの運営スタッフ役



②駆けつけボランティア役 & ③被災住民役  
上記1と同様のやり取りをしていただきます

## ■ 災害VCの運営スタッフ役

- 多彩なニーズを受け止めるとともに、常に「判断」が求められる
- 運営ルールは毎日変化・進化する
- 迷ったら一人で「判断」せず、班内や総務と協議を(いつも協働の気持ちで)
- 他の班といつも連携を(ICTツールも有効)
- 日に日に福祉的支援が増える(→専門職への移行)

## ■ 各班の役割

- ボランティア受付班

駆けつけるボランティアも多彩

長蛇の列を作らない工夫を

- ニーズ班

被災者の気持ちも傾聴(不安、疲弊、やるせなさ)

場合によっては現地を下見(先遣隊)

- マッチング班

チームを編成し、送り出す→作業後の結果を聞く

ニーズ班との連携は綿密に

# ■ 福井市災害ボランティアセンター



- **運営ガイドライン**

<https://www.fukui-volunteer.net/disaster/11770.html>

- **公式facebookページ**

<https://www.facebook.com/fukui.saigaivc/>

